

編集室から

桜も終わり、こんなにもたくさんの緑色があったのかと思うほどの新緑に山々が包まれる五月。

その最初を飾るのは、能登半島七尾のデカ山巡行。四百年以上も続く青柏祭の山車として街中を練り歩きます。釘を使わず15mもの山車が毎年組み立てられてゆくを見ると、いよいよ祭りへと胸が高揚してきます。

今月の表紙をご覧頂ければ、大きな車輪が大人の背丈を越えていることがわかります。これが、人々が曳く3本のロープで駆け出す瞬間は、圧巻です。写真には、山車の間に入って小さな梃子(てこ)で山車を止めている人が見えます。この梃子を外した瞬間に走り出すのです。写真右手から山車に向かって数本構えられているのが、方向を微調整するための梃子と、止めるための大梃子(写真手前)。この梃子を操る役を梃子掻きといい、数ある山車巡行の役回りの中でも、一目置かれた存在です。

時に速度がつきすぎた山車は、この大梃子さえも跳ね越えることがあります。その瞬間、大梃子をさっと引き、大車輪の着地地点にピタリと据えると…。見事一発で止まるのです。

巨大な山車が猛烈な勢いで自分に向かってくるのをものともせず、冷静・正確に梃子を操る老人の、感動というにはあまりにも、凄すぎる瞬間が眼に焼きついて離れません。

何もかもが「安全」に過ぎた今日、イザというときの人々の判断・行動があまりにも弱すぎる気がするのは、私だけでしょうか。

普段、温厚な能登人の何処に、これほど祭りへの情熱が隠されているのか…。半島は、お盆にかけて、祭りの季節を迎えます。(は)

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。



2010/05

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167

石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217

Fax 076-233-7375

Email usric@neting.or.jp

2010/05

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

泉 月



大人の身長を越える大車輪の
デカ山が駆け出す瞬間
能登・七尾・青柏祭にて
by hama

寄稿『支援したくなる取り組み』

岐阜県中小企業団体中央会 森瀬 融

私が所属する中小企業団体中央会といっても、聞き覚えのない方が多いと思います。本会は、中小企業支援機関として位置付けられており、中小企業者により組織される組合や団体を支援する都道府県に1つずつある組織です。農業協同組合、漁業協同組合、森林組合などはよく耳にされるのではないかと思いますが、本会の支援対象は同じ組合でも中小の事業者により組織された組合組織や任意の団体です。

前置きが長くなりましたが、折角の機会をいただきましたので、私が関わらせて頂いた組合の取り組みをPRさせていただきます。

今回紹介させて頂くのは、“つるむらさきうどん”を製造販売、飲食店経営もされている“つるや”さん（武芸川町特産品開発企業組合）です。岐阜県の中心近くに位置する関市武芸川町（旧武儀郡武芸川町）で地域を活性化させる為に地域の農業婦人クラブを中心に特産品開発をされました。そこで着目したのが“つるむらさき”という植物です。地を這いながら蔓をどこまでも伸ばしていく生命力あふれる植物で、つるむらさきの粉とほうれん草の生葉を比較すると、つるむらさき粉の方がカルシウムで約四十五倍、鉄分で約八倍、ビタミンA、カロチン、ポリフェノールも豊富な、まさに健康野菜そのものです。もう一つの特徴が、健康にいい食べ物によくある“ネバネバ”です。このネバネバ成分をつなぎとしてうまく利用されたのが武芸川町の特産品となった“つるむらさ

きうどん”です。健康野菜の成分はそのまま受け継ぎ、濃い緑色のもちもちとした食感のおいしいうどんです。つるやでは、このつるむらさきうどん以外にも、地元で採れた野菜や岐阜の地鶏である奥美濃古地鶏の料理も用意されております。この地元の野菜は、近所の高齢の方がお店に持ってこられた自分で育てたもので、その新鮮な野菜を買い取り、料理として出されています。また、元々この地域には、お客さんを自分で打ったうどんでもてなすという習慣があったそうです。そのため、地域の高齢者はうどんを打つことが上手く、つるやでは職人として働いておられます。つるやは、地域の高齢の方の働く機会、生きがいの一つとなっており、こうした面でも地域に貢献されています。平成二十一年度には、岐阜県の観光振興につながる新しい地域資源として岐阜県の「じまんの原石」にも認定されました。店構えは築百年以上の民家を改修し店舗とされていて、どこか懐かしい感じがするお店です。お近くに來られた際にはお立ち寄りください。つるむらさきうどんはインターネット通販もされていますので、是非つるむらさきうどんを検索してみてください。
<http://www.e-tsuruya.com/>



【プロフィール】
（もりせ とおる）岐阜県中小企業団体中央会 国際チームチーフリーダー。大学卒業後、平成4年に岐阜県中小企業団体中央会に就職し、中小企業団体支援の仕事に従事。今後、も従事する予定。岐阜に生まれ、岐阜に育ち、岐阜で働き、岐阜に家庭を築く根っからの岐阜県人です。

濱のつばき 『想い』

恋せよ乙女。紅き唇褪せぬ間に。大正歌謡の一節。現代。草食系男子。色恋に興味が無いかのようにあつさりと振舞う傾向の呼び名という。

今から三十年以上も前の高校時代。大恋愛をしていた。彼女が休むと、普段はろくにやりもしない講義録を完璧に取り、早々に帰宅して今度は自分の癖字が、それと判らぬ様にそれは丁寧に清書をした。そして、翌朝は飛び切り早起きをして誰も居ない教室の、彼女の机の中に隠はせる。自分は、部屋にこもって時間を過ごし、遅刻ギリギリを狙って教室に飛び込む。こうして、提出元不明のレポートを出し、誰にもそのことを話さずにいた。思えば純情だった。

ほぼ完全に無視されるほど、完璧な空振りだったその当時は切なかったが、今思つと、あれほど心の成長をさせてもらった経験も中々無い。

殆ど口も利いたことが無い彼女の何処に自分は好意を抱くのか。随分と考え込んだ。可憐な容姿だとすると何かあって変わってしまったら、嫌になるのか。そんな程度なら、愛しているとは云えまい。

谷崎潤一郎の春琴抄。師匠の美貌が火傷で失われると、自らの瞳を針で突いて盲となり、愛し続け傍に仕えようとする主人公。

乗り合わせた客車の連結器が突然はずれ、急峻な峠を逆送し始める。手動ブレーキも利かぬ。目前に迫る急カーブ…。その瞬間、自らの命を投げ出して、乗客を救った鉄道員の実話。そこに脊髄力リエスが奇跡的に治癒した作家自らの体験を加えてつづられた三浦綾子の塩狩峠。

この時期に読み、深く刻まれた小説である。

男子の草食系化は、失恋で傷つくことを怖れた自己防衛本能ではないかとの説がある。これが真実なら、実際は逆ではないかと思う。

その恋愛自体は成就せずとも「好意を寄せる人がいる」というだけで、あれこれ想いを廻らし、相手の事を思いやることを知る。この経験自体、何倍も人生が豊かにさせてくれる。

最近ようやく気づいた事がある。相手がやりたいことを受け入れ、それを暖かく見守ることが、本当に愛することである、と。

大切なはずの子らに、果たしてこのように接してきたか。自らを振り返ると、甚だ疑わしい。

自分が父親になった歳を二人の息子も越えた。どうやら恋愛の影すらない彼らにも、その素晴らしさを伝えたいのだが、それはあまりに唐突過ぎるだろうか。

『 twitterとiPhone とUSTREAMの衝撃 』
(株)アスリック プロジェクト推進部 五十嵐 政信

twitterってやつが流行り出したということは知ってはいた。知ってはいたが、「おはよう」だとか、「昼ごはんう」とか呟いたところで、一体何が面白いのか??と思っていた。斜に構えてはみたものの、twitter特集の雑誌を買いちょっと真面目に調べてみた。一読後、「これは大きな勘違いをしていた」と思った。twitterってやつは、うまく活用できれば最先端の情報がリアルに入るだけでなく、ものすごいネットワークを作れる武器になる。これはやってみるしかないと思った。

twitterを使いこなすには、PCでやっているのは埒が明かない。携帯でするのが一番。でも僕の携帯はパケ放題契約していない。携帯でWebなんか見る必要性を感じていなかったからだ。でもこれじゃtwitterができない。それで、この際iPhoneに機種変更だと思った。

衝撃だった、iPhoneは。使ってみて初めて分かるその凄さ。これまで、iPhoneについても、特集本を何冊か読んだことがあった。電気屋で実際に触ったことも何度かあった。でも分からなかった、その凄さが。これはPCを超えている。全く新しい、今までになかったツールだ。

iPhone専用のアプリが万の単位で出ている。しかも無料のアプリが山ほどある。このアプリを活用すると、PC以上の事が色々と出来てしまう。しかもとっても楽しくて面白くて深い。ハマってしまった。

さてここまで分かったなら、次はUSTREAMだと思った。これはネットでの動画生中継サイト。注目の事業仕分けなんかは、リアルタイムで30万人以上の人が見ていたようだ。僕も蓮舫さんの切った張ったをUSTREAMで見た。またソフトバンクの孫さんと楽天の三木谷さんの講演&対談を見たりした。

iPhoneを手にした今、見るだけでなく実際にUSTREAMに生中継してみた。最初は4 5人の仲間との単なる遊び気分だった。生中継といっても、撮影しているのは部屋の中や外の、全く面白味に欠ける映像だからだ。その内仲間が、この動画に見ている側からtwitterを通じてコメントを書き込むことができることを知った。また放映する側はYes,Noで応えるアンケートを取ることができることも分かった。

USTREAMでは、動画を活用したインタラクティブなコミュニケーションがリアルタイムにできる。それもグローバルに。しかもコストは無料。要するに個人でTV局と同じ事が簡単にできるわけだ。

しかし、これから新聞社やTV局はどうやって飯を食って行くのだろう。とんでもない変化が、今まさに起きようとしているように思えてならない。

『 メジャーリーグ開幕 』
SOS代表 川島 嘉浩

冒頭からなんですが、私は無類の松井秀喜ファンです。ニューヨークにも何度か行きました。今年は6月にロス行きを画策しています。

- 何故好きか?というと同じ石川県民ということもあるのですが、
- ・どんな状況におかれても常に自身を客観的に判断ができる
 - ・個人の成績より、チームの勝利を優先する
 - ・自身の成長のためには、今の成功を捨ててでもチャレンジする

他に挙げきれないくらい彼の魅力はあるのですが、私が思う松井秀喜最大の魅力はこの3つです。「甲子園での5打席連続敬遠」、「盟主巨人からメジャーリーグへのFA宣言」そして記憶にも新しい「ワールドシリーズでのMVP」どれも彼らしい謙虚で真摯な人間性が垣間見えたのではないのでしょうか。

話は変わりますが私の仕事は、企業や学校法人といった組織に対して、ビジネスモデル転換、新規事業開発、マーケティング戦略におけるお手伝いなのですが常々思う事は「企業の最重要資源は人と組織」だということです。私もこの道でご飯を食べている人間ですので、その企業様の経営資源と市場環境を背景にベストまではいかなくとも、ベターな計画を立てている自負はあります。

しかし、実行段階で「企業の文化、組織のマネジメント能力、社員のモチベーション」という要因によって、当初コミットした行動計画から逸脱していく事が非常に多いのです。本来、外部の人間にお金を払って自社の計画づくりを依頼していることから考えると相当の危機意識はあるはずなのですが、なぜか最後の最後に既成概念、従来のやり方から脱却ができない。実はそれらの企業の多くはビジネスモデルではなく、組織モデルが問題なのでしょう。

ではあるべき組織モデルとは何か?またまたいきなり話は松井選手に戻りますが、彼が星陵高校時代だった頃から見続けてきたなかで、彼は実はストイックまでの個人主義なのではと考えることがあります。ここでの個人主義とは単に自己主義ということではなく、「チームの目的達成に向けて、自身が担うべき役割を理解し鍛錬しつづける」ということです。

これを個人だけでなく、組織の各レイヤーで考えると、マネジメントをするコーチの幸せは「選手の活躍であり、それを勝利に結びつけるマネジメントをすること」、チームオーナーの幸せは「チームが勝利し、多くのファンがこのチームを愛してくれること」だとすると、組織の目的と選手の目的はひとつの線上にあるわけです。

つまり、いい組織とは各レイヤーにおいて個人から組織、組織から個人を考えることができ、目的の達成に向けてのスキルアップはもちろん自己改革も厭わない。個性的なプレイヤーの集まるメジャーリーグの中でも、やはりいい選手、強いチームというのはそれができているなと感じます。

という原稿を書いている最中、松井選手が古巣ヤンキースから先制ホームラン!今年日本人初のメジャーリーグホームラン王もいけるな。とまあ結局は単にミーハーな私です。

精進料理をいただいた後は、西楽寺に場所を移し「寺子屋体験」と称して寺にまつわる歴史、寺院建築の見どころ、中に納められている仏像の見方の勉強だ。西楽寺は袋井市の最北端にあり市内最古の寺である。奈良時代724年開創、平安時代には真言霊場とし栄え、その後豊臣秀吉、徳川家康から寺領170石の領有権を認められ、僧侶の養成所として多くの学徒が集まっていた。僧侶だけでなく、子ども達も学問を学びに寺に集まってきていて、寺子屋が敷地内にあった。明治に入ると寺子屋制度は廃止されたが、「すぐに学校を」と言っても、寺の境内を借りたり、先生もそのまま同じ先生が教えたり、運営費用も有志の寄付により賄われていたという状況だった。



さて、「寺子屋のはじまりーはじまり」。説明は丸山住職である。まずは建築からだ。本堂は開創当時のものではなく1728年に再建されている。昭和55年に県指定の文化財になり、平成3年から3年半の工期、総工費2億8千万をかけて大修理が行われている。屋根は“さわら”の木を使ったこけら葺き。破風の曲線を出すのに幅の狭い板を幾十にも重ねての施工している。気が遠くなるような細かく、しかも大量な作業が行われている。これにより優美な屋根の線が生まれている。濡れ縁を支える木組みにも屋根同様に梁と束をつなげる“かえる股”が使われている。



次は、本堂中にある仏像の説明だ。ご本尊の阿弥陀三尊は中央に悟りを開いてブツダとなった仏様で最高位に位置する阿弥陀如来が、両側には力があるのにあえてブツダにはならず、衆生の救済に当たる勢至菩薩と観音菩薩が構える。これら三尊の目には水晶で眼球が作られ人間の目のように見えている。



さらに、西楽寺では厄除け身代わり不動明王が知られている。1707年に日本最大規模の地震のひとつに数えられる宝永地震が起こった。マグネチュード8.4、大津波もあり死者2万人、倒壊、流失した家屋8万戸という大被害をもたらした。その49日後には富士山の大噴火が始まり、人々を恐怖の底に陥れた。無くなった人の供養と復興を願って立てたのがこの不動明王なのである。こうした謂れと普段目にすることのできない仏像を参拝することができ、しかも写真もOKとすることで、実に満足度の高い寺子屋授業であった。



(完)

(編集者注)

溝口さんの記事にある「三日坊主さんの旅」の問い合わせは、静岡県袋井市観光協会(TEL0538-43-1006)へ。

ホームページでも情報発信されています。トップページの写真で、合唱している「修行者」の前列右から二人目が溝口さんです。

<http://www.fukuroi-hot-navi.jp/>